

令和8年度 シラバス 【日本史探究】

1 1 新潟県立新潟翠江高等学校（通信制課程）

履修区分	単位数	レポート提出回数	最低出席時数	試験回数
選択	4	1 2	4	2
教科書			学習書・その他教材	
日本史探究（東京書籍）			最新日本史図表（第一学習社）	

グラデュエーショ ン・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①生涯にわたって自ら意欲的に学び続け、目標に向かって努力する態度を育成します。 ②互いの人権や考えを尊重し、命を大切にする心と行動力を育成します。 ③社会的・職業的自立に必要な勤労観や職業観を育成します。
カリキュラム・ ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行う～ ①多様な生徒の学習歴や興味・関心に合わせた科目選択ができる教育課程を編成します。 ②思考力・判断力・表現力の獲得を目指した、学びを充実させる丁寧な面接指導(スクーリング)を行います。 ③生徒が自学自習しやすい報告課題(レポート)を作成し、生徒の学びを深める丁寧な添削指導を行います。 ④放送視聴や平日校外スクーリングなど、通信制の特徴を活かした多様な学び方を促します。 ⑤コミュニケーション能力の伸長を図るため、生徒交流会や運動会、体験学習等の特別活動を行います。

学習目標

日本の歴史を、諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察し、日本の文化と伝統の特色についての認識を深めるとともに、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。

学習内容

第1編 先史・古代の日本と東アジア	(第1, 第2回 報告課題)
第2編 中世の日本と世界	(第3・4回 報告課題)
第3編 近世の日本と世界	(第5, 第6回 報告課題)
以上が前期試験範囲	
第4編 近現代の地域・日本と世界	(第7回～第12回 報告課題)
以上が後期試験範囲	

学習方法

《報告課題》

- ・日本史の政治、外交分野を中心に報告課題がつくられています。教科書のページが示してあります。関係する部分を読みながら書き込めます。
- ・課題の中には①教科書の言葉を写す問題 ②教科書の内容から類推（予想する）して解く問題 ③教科書の一部を書き写す問題 があります。
- ・①は読みながら知識を学ぶための問題です。②は教科書を読んだ知識を組み合わせる問題です。③は知識を確実に覚える。書き写すことで説明の仕方、考え方、書き方を学ぶ問題です。
- ・上記のことからスクーリングの前に問題を解くことが学習方法の基本です。
- ・報告課題は**ためずに一回ずつ、遅れても出す**。これも学習方法の基本です。
- ・報告課題の文字は「楷書」で書きます。点画を崩さず書くようにして下さい。
- ・字が乱雑（続け字、うすい字、小さい字等）な報告課題は判読できない場合があります。正しい字か分からない場合は採点対象になりません。

《スクーリング》

- ・報告課題に沿った解説をします。併せて、報告課題がカバーしていない学習内容について補足説明をしながら進めます。

《試験》

- ・試験の範囲は「学習内容」の通りです。内容は各回の報告課題の一部を組み合わせ出題します。

評価の観点の趣旨		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
歴史、文化の時代的特色について基本的な事柄を理解して報告課題を作成している。	歴史的事象を時間軸、地理的条件、社会的条件等を組み合わせて考えながら報告課題を作成している。	歴史的事象に自分から諸資料を活用して調べ、理解したことをもとに報告課題を作成している。

評価方法		
各観点における評価方法は次のとおりです。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ ・定期試験の分析 ・レポートの内容の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ ・定期試験の分析 ・レポートの内容の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ ・定期試験の分析 ・レポートの内容の分析 などから、評価します。
内容のまとまりごとに、各観点「A：十分に満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。		

担当者からの一言
クルクスはウクライナ国境近くにあるロシアの工業都市です。第二次世界大戦の頃、ナチスドイツとソヴィエト（現在のロシア）の戦車同士が戦った「クルクスの戦い」の場所としても有名です。 80年後、これからウクライナで起きるかもしれない欧米とロシアの戦車同士の戦闘は、「歴史は繰り返す」を体現するような歴史的事象になるかもしれません。 歴史を知ることによって未来の世界の姿が見える場合があります。歴史学習を通して調べたり、考えたりすることが未来を見る力を身につけることにつながります。